



彩の国バリアフリー協会だより

第9号



広報誌発行にあたり

彩の国バリアフリー協会会長
戸井田秀明

新年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃より、会員の皆様には会の運営に御協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

昨年、東北地方の大震災により日本中が大きな衝撃を受けました。被災地に対する思いは人それぞれ違いはあると思いますが、人と人のつながりや思いやりは、全ての国民が感じたことと思います。一方でこの震災の中、政府の動きに疑問を感じる声も多いことでしょう。東京電力に対する対応や被災地に対しての行動が、違った視野からとらえているように見えますが、いかがでしょうか。

私も建築の立場から被災地に行きましたが、そこで目の当たりにした光景が頭から離れません。まだまだ、私たちがやらなければならぬ事、やれる事は沢山あります。

そして何よりも、この震災のことを忘れないことが大切かと考えます。



震災後、埼玉でも住宅の耐震診断の依頼が大幅に増加しました。

特に昭和56年（法改正）以前に建築された住宅に対しては、耐震補強に対する考えが重要視されています。

今回の震災で、自分達が生活している住宅が地震に対して危険であると感じ、安全な住まいにしなければいけないと、誰もが思っていることかと考えます。

私も仕事柄、住宅の耐震診断の依頼を受けて沢山の住宅を診断していますが、ほとんどの住宅が危険な状況になっているのが現状です。被害にあつてからでは遅いという事を、住宅を設計する立場の建築家が声を大にしていかなければいけません。

バリアフリー協会は、人々の生活の中にある数多いバリアを無くしていく為の組織として、本年も活動を進めていきます。

どうか、皆様の御協力を心よりお願い申し上げます。

もう新しい年で

総務部担当・副会長
佐藤啓智

平成23年もあつと言う間の一年でありましたが、新しい年を迎えましたので、今年も皆様頑張りましょう！！

彩の国バリアフリー協会も、気持ち新たに活動したいと常々思うのですが（戸井田会長もそう思っておるはずだ）、私が、なにぶん能力が無いいため協会運営の難しさが身にしみております。昨年も多く企画をしても多くの会員の参加が無く大変残念でなりません。役員一同ボランティアで活動ではありますが、会員の興味ある企画運営を今年度も知恵を出し合い進めていこうと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

昨年9月中旬、家族旅行で台湾に行つて来ました。台湾『九份』（千と千尋の神隠し）のモデルになった街）に行つて来ました。当日、台風が近づいていたため若干小

雨が降っていたのですが素晴らしく、且つ夜だったので提灯の明かりが情緒豊かで、大感激でした。来年はこの場所で一泊を計画したいと考えておりますが、ただ完璧なバリアフリーです。階段は急ですし、道幅は狭い、酔っぱらつて歩いたら転んで怪我する事は目に見えておりますので、『九份』では美味しいお茶で我慢しようかなと・・・。



今年の日本の状況は？、景気は？、どうなるのでしょうか！！

震災地の復興もなかなか進まず、ここにきてボランティアの皆さんも少なくなつていけると聞きます。当協会も何らかの支援をと総務部で検討しますので、その節は会員皆様のご協力を節にお願ひし、今年も会員皆様にとつ

てよりよい年になりますよう、ご祈念申し上げます。

「地域で過ごす車椅子使用者の生活現状とユニバーサルデザイン（UD）の関係について」

事業部担当・副会長
栗林稔昌

年頭のご挨拶を申し上げます。

バリアフリー協会で副会長兼事業部長を担当させて頂いております、栗林です。



今年のバリアフリー協会は福祉の現状問題をわかりやすく会員の皆様に伝え、問題改善に向けた啓発活動を行つて行きたいと思っております。

まず先だつて2月25日（土）にさいたま新都心のWITH YOU さいたまに於いて、自身の経験を踏まえた車椅子の現状を伝えるべく勉強会

「地域で過ごす車椅子使用者の生活現状とユニバーサルデザイン（UD）の関係について」を開催致します。

又、その他に、障がい当事者、福祉従事者を交えた座談会形式の勉強会、そして会員の皆様を知りたい情報、求めるニーズに答えるべく活動を行って行く予定でおりますので、今年も昨年同様バリアフリー協会を宜しくお願い致します。

「一口メモ」

戸井田秀明

先日、当協会の会員に声をかけられ、「バリアフリー協会はまだ何か活動してるの？」と言われました。私は思わず「エッ」と口に出してしまいました。

会員の中でも、活動している内容を知らない人がいるということでは、増して一般の方々にわかってもらえないという状況に、シヨックを受けました。そして、反省しました。当協会は100名近い会員数で運営しています。

会員の中には、沢山の分野の専門家がそろっています。協力し合うことにより、多大なパワーが生まれます。このパワーを生かしたいと考え、年に何度となく企画を立て行動しています。

そして、その為の情報を会員の皆様に届くように活動しています。

しかし、まだまだ不足しています。会員だけではなく協会の外の方々にアピールしていくには、皆様の協力無くして実現できません。今後の協会に対する会員の皆様の御力を宜しくお願い致します。

彩の国バリアフリー協会のホームページアドレスは下記のとおりです。

<http://sainokunibarikyo.web.fc2.com/>

バリアフリー

関連の記事から

(記事の続きを読みたい方はタイトルをインターネットで検索して読み下さい。リンク切れで読めない場合があります)

トヨタ、

医療・介護ロボ発表

13年以降に実用化

トヨタ自動車は、2011年11月1日、介護・医療用のロボット4種類を発表した。2013年以降に実用化

する。体の不自由な人や高齢者の自立歩行をたすけたり、ベッドから人を持ち上げてトイレに移動させたりする。トヨタが医療分野のロボットを手がけるのは初めて。07年から藤田保健衛生大(愛知県豊明市)と共同で開発してきた。



自立歩行をたすけるロボットはブーツのような形。足にベルトで固定して使う。自動車のセンサーを応用し、ひざの角度や足裏にかかる体重を検知。歩く速さや歩幅に合わせて足の振り出しを支援する。ひざを曲げることができ、階段や坂道でも比較的スムーズに歩けるといふ。炭素繊維も用いて軽量化した。

価格は未定。



脳卒中などのリハビリのための歩行練習用や、歩くことが難しい人のバランス練習を支援するロボットもある。

今後は、病院や介護施設での

実験を増やし、安全性や使いやすさを高める。トヨタの井上洋一常務役員は、「介護はより裾野の広いビジネスになる。すべての人が自由に移動できる社会を目指したい」と話した。

Asahi.com

2011年11月1日

フランスベッド、自走式車いす「サイドウェイ」を発売

平成23年12月26日 フランスベッド(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:池田茂)では、全方向に移動できる横移動車いす「サイドウェイ」を2012年1月下旬より発売。

販売価格は220,000円(非課税)となり、1ヶ月あたりのレンタル料金は8,000円で、介護保険の適用で月額800円にて利用できる。

今回発売する「サイドウェイ」は、座席の脇に設置したアームレバーを引き上げる操作をするだけで、車輪が浮き、車体を前後左右、斜めと全方向への移動を可能にした車いす(特許出願中)。座席に座ったまま横に移動できるためベッドなどへの移乗が楽に行え、これまで何度も切り返しを行う必要があ

ったトイレやエレベーター内などの狭い場所でも小回りが効くので移動がスムーズに行えるようになる。また、大車輪やフットサポートを取り外すことができるため、レストランや居室などでキヤスター付きの椅子としても使用でき、持ち運びや収納にも便利。

これまでの自走式で横移動が可能な車いすは、介助者の立場で開発された商品が多く、車いすの操作を介助者が行う商品が中心だった。今回の「サイドウェイ」は、搭乗者の視点から開発した商品で、介助者だけでなく搭乗者も横移動への操作ができるようになり、搭乗者がより快適に生活の行動範囲を広げることが可能にした。

「サイドウェイ」は、日常生活活動の向上を目指した「人にやさしい」モノづくりから生まれた新ブランド「リハテック」シリーズの商品となる。フランスベッドでは、アクティブシニアと呼ばれる高齢者を対象とした、健康に気を遣い、毎日を楽しく快適に過ごしたい人のための商品とサービスを展開する予定だといふ。

毎日新聞

2011年11月26日

「聴覚障害者にも音楽を」

八王子で振動使った研究開発進む

東京ユースラボラトリ(八王子市大和田町6)は11月25日、聴覚障害者でも音楽を楽しめるよう開発している機器について研究発表会を行った。

聴覚障害者との意思疎通などについて研究開発を進める同団体。今回は企業間や産学連携、中小企業のためのリーダーの育成、インタンスリップをはじめとする人材育成などの事業に取り組むサイバーシルクロード八王子(明神町2)の会議室を会場に、同団体の峯山勇治代表と埼玉医科大学医学用生体工学科の石井郁夫教授が、それぞれ発表を行った。



峯山さんは自身が進める音を振動情報として伝える試みについてスライドを用

いながら説明。手話コーラスを見て、本当に聴覚障害を持つ人が楽しんでいるのか疑問に思ったことが研究開発につながったという。現在はデューブルや箱など触れたものをスピーカーに変えるポータブル振動スピーカーをベースに、体を通して振動を伝える技術の開発を進めている。

「これまでに肋骨や肋骨(ろっこつ)、鎖骨などは振動に対する感覚が高いことなどがわかった」と峯山さん。曲のオクターブを下げ、200ヘルツ程度の音域の強調することで振動として伝えるアプローチを模索している。

会場では毎夏に行われる「八王子まつり」の際の太鼓の音を使って、実際に参加者が頭や手に当てて体験。聴覚障害者を被験者とした実験などはまだこれからの段階だが、「技術的な問題はほぼクリアしたものと考えている」と峯山さん。製品化などについては、「意欲がある企業が現れるかどうか」とも。

石井さんは音を光に変える技術の開発を進めており、ベースとなる聴覚について解説を交えながら詳しく説明。実際にコオロギの鳴き声を流してLEDランプを変

化させる模様も披露した。

「デジタル回路だとリアルタイム性に問題があるので、アナログ回路で構成した」と石井さん。表現する色相をどうするかなど、会場の参加者とさまざまな議論を交わした。

八王子経済新聞
2011年12月1日

「気づき」が生んだ「竹製車いす」

日本航空では乗客のあらゆるストレスに敏感になり、それをおもてなしのこころで受けとめる、「こころのユニバーサルデザイン」を目指しており、その取り組みの一つとして、「竹製車いす」を羽田空港(国内線)、伊丹空港、大分空港の3空港に計4台配備した。



「竹製車いす」は、保安検査場において金属反応が出ないという点特徴。車いす利用の乗客が、保安検査場を通過し搭乗口まで快適に移動できる。(本人が身に着けているものが反応した場合

は、通常と同じくボディチェックが行われる)

これまで金属製車椅子では、乗客が保安検査場を通過する時、たとえ金属品を所持していなくても、車椅子の金属が検査機に反応するため、その後、ボディチェックや簡易検査機での検査を余儀なくされていた。

「竹製車いす」は、車輪、強度を保つ軸や軸受け、ブレーキ等全てにおいて金属を使用していない。大車輪に装着される握り手部分(ハンドリム)の輪状も竹で作られており、竹特有の温かさを感じることが出来る。また足乗せ部分や全体の強度確保にはしなやかな竹の弾性を生かすための特殊技術が施されており、介護用と見られがちな車椅子ではなく洗練された家具のような雰囲気併せ持っている。

毎日新聞
2011年11月25日



新入会員紹介

「福重大輔さん」が昨年入会されました。以下ご本人による自己紹介です。



川越市の障がい者施設で働いています。

趣味は読書と料理です。目下の目標はダイエットになります。

「協会への要望」
パリアフリーのさらなる推進、普及に貢献していけたらと考えています。

編集後記

昨年末の朝日新聞「天声人語」に考えさせられる文章がありました。以下に引用します。

.....
小紙(朝日新聞)の声欄を読んで、ときおり切り抜いている。去年に読んだ1通を、年の瀬の銀行の長い列に並んで思い出した。「暴言にめげず老いを生きる」と寄せた女性、病院内の現金預け払い機でもたつき、後ろの男に「さつさとやれ」と怒鳴られた▼動作がのろくなつたと自覚してはいたが、ショックだったという。

長生きはしたくないものだ

と半月ほど落ち込んだ。あった。「早くしろ」のオーラを立ちのぼらせ、もたもたに不寛容な空気が、どうも世の中に濃い▼人だけでなく機械もそうだ。机上の電話はブツブツに少し手間取ると切れてしまう。歩行者用信号にも随分早く赤になるのがある。取り残される。高齢がいとハラハラさせられる。▼そんな中の朗報だろう。渡りきれない人を感じて青の時間が延びる信号機が目の見えたと。全国でまだ20基余りというが、増えつつある。たとえば水戸市のは、通常は20秒だが5秒から15秒延びる。▼一般に、高齢者が10秒に進める距離は若年より2m短いという。体に支障があればさらに遅れよう。急げば転倒の恐れもある。信号に限らず、バスの乗降、レジの支払い。せかず空気が緩めば、お年寄りには萎縮しないですむ。▼三秒だけ待って下さい履けるのです飛んできて靴を履かせないで、の一首が小紙歌壇にあった。介護の人に訴えているのだろう。善意でも、健康成人のペースで測っては、できることも奪ってしまう。周囲で街で、心と時間のささやかな余裕を、互いに贈りたい。

.....
同じ光景を見ても受け取る側の心のありよう。あるいは能力でまるで違った対応があるのだとつくづく思います。

昨年は東日本大震災という大災害があった年なので今年こそはよい年でありますようにと祈りつつ広報誌をお届けします。

会では今後もいろいろ企画を考えていきますので、まだ参加されていない方もお気軽にご参加下さい。
本年(23年度)2回目の広報誌発行となりました。今回は24年度5月頃を予定します。忙しい中寄稿していただいた役員の皆様ありがとうございました。

情報をお寄せ下さい。

パリアフリー関連法規についての疑問・ニュースその他ございましたら左記メールアドレスまでお知らせ下さい。役立つ情報を発信し、この広報誌を会員の皆様との情報交換の場としたいと思います。送って下さる場合はお名前・連絡先明記をお願いします。

(y_kinag@bh.ne.jp)

広報担当 稲垣

勉強会開催のご案内

障がい当事者の生の声を聞き今後の住環境整備の参考になればと思い、勉強会を企画致しました。お気軽にご参加ください。

平成24年2月25日(土)

14:00 受付開始
14:30 開演
16:30 終演

勉強会終了後、講師を交えた懇談会を計画しております

地域で過ごす車椅子使用者の生活現状とユニバーサルデザイン(UD)の関係

講師
栗林 稔昌



With You さいたま
セミナー室 3・4

～埼玉県男女協同参画推進センター～

定員 45名
参加費 無料

主催

彩の国バリアフリー協会

<http://sainokunibarikyo.web.fc2.com/>

協賛

(社)全国青髄損傷者連合会埼玉支部

<http://sekison-saitama.com/>

福祉住環境改善グループ

<http://8343kuribayashi.com/fukushijuukankyou.htm>

講師 プロフィール

栗林 稔昌 氏

転落事故により車椅子生活を余儀なくされて17年。自身が苦勞・体験した住環境を始めとした福祉の問題点の改善を目指し啓発活動を行っている。

栗林福祉建築事務所 代表
彩の国バリアフリー協会 副会長
(社)全国青髄損傷者連合会埼玉県支部副支部長
福祉住環境改善グループ 代表

地図



さいたま市中央区新都心2-2

電話 048-601-3111

JRさいたま新都心駅から徒歩5分

参加希望者に於かれましては下記に記入の上2月15日(水)までにFAX願います

氏名	
所属名	
連絡先	
懇談会	参加 ・ 不参加 (どちらかに○をしてください)

FAX 送信先 彩の国バリアフリー協会事務局 FAX 番号 048-720-7831